

【家庭科】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証・評価

- 展覧会に向けて作品を完成させるという目標をもち、特に裁縫実習を充実させたことにより、基本的技能を習得させることができた。
- 裁縫や調理の実習を実生活と関係付けて考えさせながら取り組んだことで、学校で学んだ技能を家庭で実践する児童が多く見られた。学校での学習と家庭生活を結び付けることができていた。
- △授業時数のうち実習時間を多くとったために、基礎知識の定着に差が出てしまった。

2 学習状況の分析と課題

	関心・意欲・態度	生活を創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての知識・理解
学習状況の分析	自分の生活や衣食住に対する関心には個人差がある。学校での学習により家庭生活を改善しようという意欲は高まっているが、実践する家庭の協力が得られなかったり児童の時間的余裕がなかったりすることが多い。調理実習や裁縫実習は意欲的に取り組み、作品完成に向けて家庭や休み時間にも自主的に楽しんで活動している児童が見られる。	多くの児童は、便利なものに囲まれて家族にやってもらうことに慣れてしまっている生活環境にあり、自らよりよい生活を工夫しようとする必要性を感じていない。保護者にも子供に家庭での役割を担わせようという考えが薄く、家庭で実際に自分の生活を工夫する機会が少ない児童が多い。	家庭での生活様式の違いにより、生活の技能の差は大きい。全く未経験の児童や始めから目的意識の薄い児童が多いことにより、基本的な道具の使い方の習得に時間がかかる。 5年生：調理実習や裁縫での基本的な技能の習得に時間がかかる。 6年生：5年時に経験のある技能は身に付いているが、それを自分で活用する能力には個人差がある。	衣食住や家族の生活に関する基礎的な事項について、学んだ事柄は机上の知識としては理解している。しかし生活経験による理解の差は大きく、また、学習しても自分の生活に必要感を感じられていないため、定着しにくい。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や家族の生活とよりよい衣食住について、主体的に関わり、自分の生活と関連付けながら考えようという関心を高めること。 ・衣・食・住に関する基本的知識や基礎的技能を、体験を通して身に付け、定着・活用できるようにすること。 ・時間や物を有効に使うことや、家族の一員として家族と協力したり家庭の仕事を担ったりすることによって自分や家族の生活をより良くしようとするということについて実践的に学べるように、家庭の理解を図っていくこと。 			

3 授業の具体的な改善策

教科目標	<p>新学習指導要領の教科の目標</p> <p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。</p> <p>(3) 家庭生活を大切にすることを育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。</p>
全体	<p>主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善</p> <p>教科書の例のみで学ぶのではなく、家庭にも協力を仰いで、実際に子供たちが自分自身や友達の生活を基にした事例を通して生活改善について、考え話し合いながら学べるようにすることで、より主体的で深い学びになるように工夫する。</p>
学年別改善策	
5年生	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの生活を振り返り自らの生活課題を見付けて、その解決や改善に具体的に主体的に取り組もうとする意欲をもてるよう、単元の導入や授業の流れを作るときに、生活との関連性を重視して工夫する。 ・基本的な技能がしっかり定着し、家庭科に対する苦手意識をなくせるように、裁縫や調理などの活動にはできるだけ時間を確保し、丁寧に組み立てる。 ・家庭への連絡、お願いを丁寧にできる限りの協力を仰ぎ、学習したことを家庭で実践したり振り返ったりすることにより定着を図れるようにする。
6年生	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちがもうすぐ中学生になることや、大人に近付いていることを意識させ、自立への道筋という視点をもたせることで、主体的に自らの生活を改善していこうという意識を高めさせる。 ・実習に、グループやペアで協力しながら取り組ませたり、教室での学習では話し合い活動を意識的に取り入れたりするなど、協働で学ぶ工夫をし、主体的に課題に取り組み、協力して課題を解決する力を高められるようにする。 ・家庭への連絡、お願いを丁寧にできる限りの協力を仰ぎ、学習したことを家庭で実践したり振り返ったりすることにより、技能や知識の定着を図るとともに、生活改善への意欲・実践力が高まるようにする。